

Think Big!



2025.03.24

新宿支部の
公式 Twitter も
チェック!

No. 178

常磐線全線開通から5年 安全労働・健康労働を考える 地域共生フォーラム

常磐線全線開通に伴う労働政策(最終報告)

3月20日(木・祝日)

14:00~16:30

いわき市生涯学習プラザ 大会議室1・2

参加費:無料

福島第一原子力発電所事故で被災した常磐線が全線開通して、まもなく5年を迎えます。

JTSUは、2020年から取り組んだ「定点観測」や、常磐線で働く仲間たちの検証運動を通じて「常磐線全線開通に伴う労働政策(最終報告)」を取りまとめ、鉄道業における低線量放射線下での安全基準(ガイドライン)の法制化に向けた提言を行います。

常磐線は、現在も高放射線量下で運転を行っており、異常時等で大野駅~双葉駅間に長時間停車すると、被ばくすることが現場で働く仲間の検証行動で明らかになっています。また、私たちが5年間行っている定点観測で、今でも駅周辺では高線量が観測されています。この間、中間報告等でも明らかのように「低線量でも被ばくは避けなければならない」ということです。放射線量の把握や教育、健康診断の在り方など、「航空業界にある国際基準の根拠」や「放射線技師の意見」、「実際に福島第一原子力発電所の廃炉作業に従事した方からの意見」や私たちの「Dシャトル」検証行動をもとに、鉄道業における根拠を明確にして「安全基準(ガイドライン)の法制化」を目指すと同時に、「地域の復興の在り方について」も考えていきます。

※Dシャトルとは、1時間単位で被ばく量を測定できる線量計です。

= フォーラムに参加をした組合員の感想 =

新宿支部の多くの組合員が、21日に宮城県の「野蒜駅」「大川小学校」を訪れた同じ時期の20日に、私は福島県いわき市で開催されたこのフォーラムに参加をしました。

原発事故の影響で常磐線は富岡駅~浪江駅間が約9年間も不通になり、2020年に再開をされてから、今では5年が経ちました。現地で働く仲間からは、未だに多くの不安の声があります。仲間たちはこれまで、放射線測定器による被ばく数値管理(Dシャトル)の検証や定点観測を継続して取り組んでいます。今後はこれらの最終報告がまとめられ、「鉄道業における安全基準策定(ガイドライン)」へ繋げていくことを、今回のフォーラムの参加者で確認をしました。

急がれた常磐線の不通区間の開通ですが、その裏側で未だに存在する“復興とは程遠い現実”があります。そして、これらの事実をまるで「現存していないような風潮にする会社の姿勢」も変わりません。労働組合という組織から「命を考える」ことの必要性を実感した今回のフォーラムでした。

3月20日・福島県いわき市で、原発事故から「命の尊さ」を考える

3月21日・宮城県で、野蒜駅と大川小学校から「命の尊さ」を考える

新宿支部は今後も、3・11の教訓を組合員と考えていきます!!!